

第一回 場面をおさえる

学習日

月
日

今回は、物語の場面をおさえることを学習します。

物語を読むときには、場面をおさえて読むようにしましょう。場面とは、「いつ・どこで・だれが・どうした」という、その場の様子のことをいいます。「午後二時、キラキラと太陽がてる道を女の子が歩く」という場面と、「朝早く、さわやかな風がふく森の小道を女の子が歩く」という場面を想像してみてください。同じ「歩く」でも「女の子」の気持ちはまったくちがいますね。このように、場面をおさえて読むことは、物語を深く味わううえでとても大事なことです。

「いつ」は、きせつ・一日のうちの時間・時代などの「時」に注目し、「どこで」は、できごとがえがかれている「場所」に注目します。そして、「だれが」「どうした」というできごとの中心部分をしっかり読んでいきます。

〈物語の場面をおさえる〉

- いつ 〈時〉に注目する。
- どこで 〈場所〉に注目する。
- だれが 〈登場人物〉に注目する。
- どうした 〈できごと〉に注目する。

次の文章を読んで、物語の場面を考えてみましょう。

- [1] 夏休みのさいこの日、[2] むしあつい部屋の中で、[3] 青い顔をしたタクヤと、こわい顔をしたタクヤの母親とが、[4] 向かい合って立っていた。

今日で夏休みが終わるといいうのに、夏休みの宿題がまだ半分も終わっていないことが、母親にばれてしまったのだ。

- いつ …夏休みのさいこの日
- どこで …むしあつい部屋の中で
- だれが …タクヤとタクヤの母親とが
- どうした…向かい合って立っていた

物語のはじめに、「いつ・どこで・だれが・どうした」について、まとめて書かれているね。場面を思いえがいてみよう。



物語の中心部分に入る前に場面をおさえて、さらに登場人物の様子や、なぜそうしたのかという登場人物の行動の理由などを読み取っていくとよいでしょう。



例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

遠くから、風に乗ってにぎやかな祭りばやしの音が聞こえてきます。山のふもとの村では、夏祭りが行われているのです。この夜、ためきのポンは、山の自分の家の前で、祭りばやしに耳をすませていました。

にぎやかな祭りばやしの音を聞いているうちに、ポンスも祭りに行ってみたくてしかたがなくなってきました。(ほくも祭りに行きたいなあ。)

(でも、人間はともおそろしいっていうし……。)

ポンはさつきから家の前をうろうろしながら、なやみになやんでいました。行きたい気持ちとおそろしい気持ち

ちがポンの心の中であたかっています。

「よし、祭りに行くぞー」

ポンは自分を勇気づけるように大きな声でさげふと、葉っぱを頭の上に乗せました。そして、ドロンと人間の男の子に化けました。

① 月は天高くのぼっています。ポンは、暗い山の中で、ふもとの村に向かって一生けんめい走っていました。そのおしりて、大きなしっぽがゆれています。

次の文章を読んで、物語の場面を考えてみましょう。

- [1] 夏休みのさいこの日、[2] むしあつい部屋の中で、[3] 青い顔をしたタクヤと、こわい顔をしたタクヤの母親とが、[4] 向かい合って立っていた。

今日で夏休みが終わるといいうのに、夏休みの宿題がまだ半分も終わっていないことが、母親にばれてしまったのだ。

- いつ …夏休みのさいこの日
- どこで …むしあつい部屋の中で
- だれが …タクヤとタクヤの母親とが
- どうした…向かい合って立っていた

物語のはじめに、「いつ・どこで・だれが・どうした」について、まとめて書かれているね。場面を思いえがいてみよう。



物語の中心部分に入る前に場面をおさえて、さらに登場人物の様子や、なぜそうしたのかという登場人物の行動の理由などを読み取っていくとよいでしょう。

1

問題文のはじめには、ためきのポンスが、いつ・どこで・どうしていることがえがかれていますか。

- いつ
- どこで
- どうしている

--	--	--

2

①、「月は天高くのぼっています」とありますが、このとき、ポンスはどこで、どうしていましたか。

() いて、() に向かって走っていた。



多くの物語では、話が進むにつれて場面がうつりかわるよ。「いつ」という時の変化や、「どこで」という場所の変化に注意して、場面のうつりかわりをとらえよう。

